

令和4年度後期 附属中学校評価報告書

愛媛大学教育学部附属中学校
校長 大西 義浩

令和4年度の附属中学校の重点目標について、2月に実施した生徒・保護者・教職員対象のアンケート調査に基づき、自己評価を行いました。

については、その結果を本書面にて御報告します。今後も「自立と共生の力をもつ生徒の育成」を目指し、本校のよさを継続するとともに社会の変化や時代の流れに合った新たな工夫・改善を進めていきますので、御理解と御協力をお願いします。

《表記について》

※ 総合判定 肯定率1%を1ポイントとして出した平均(小数第1位四捨五入)
 A : 肯定率の平均が90%以上 B : 肯定率の平均が60%以上90%未満
 C : 肯定率の平均が60%未満 ※肯定率とは、4段階評価(4:「そうだと思う」と3:「だいたいそう思う」と回答した割合の合計です。)

項目	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)					
					4	3	2	1	0	
自ら学び考 える学習活 動	①学ぶ楽しさと知の創造	A (96)	教員	100	35	65	0	0	0	
			保護者	93	43	50	6	0	1	
			生徒	94	50	43	5	0	2	
	②授業で実感する自己の成長	B (87)	教員	85	40	45	15	0	0	
			保護者	89	38	51	8	0	3	
			生徒	87	42	45	9	1	3	
	③学びを深め、広げるICTの活用	A (90)	教員	90	30	60	10	0	0	
			保護者	91	35	56	7	0	2	
			生徒	89	38	51	8	0	3	
考察・対策	○どの項目においても、前期より肯定率が上がっている。仲間と共に学びながら学ぶ楽しさを感じていることがわかる。 ⇒今後さらに自己の成長を実感できるように、生徒が学びを見通し、実践して振り返る学習の研究や、効果的なICTの活用に努めたい。									
生徒自らの意 志で行動する	④責任ある自由に基づく自治活動	A (94)	教員	95	40	55	5	0	0	
			保護者	96	49	47	3	0	1	
			生徒	91	41	50	6	1	2	
	⑤学びを生かし、やり抜く経験	A (91)	教員	90	25	65	10	0	0	
			保護者	92	39	53	7	0	1	
	⑥失敗を恐れない、自己への挑戦	B (86)	教員	85	10	75	15	0	0	
保護者			89	36	53	9	1	1		
生徒	生徒	85	43	42	12	1	2			
	考察・対策	○④⑤については良好な肯定率で、④⑥については前期より肯定率が上がっている。学級や生徒会活動等を中心に、少しずつ生徒が自分たちの手で学校生活をよりよくしていこうと諸活動に向けて挑戦することができたのではないかと考える。 ⇒成功や失敗を含めた活動の過程を振り返って評価し、生徒自身が目標を達成するための努力や工夫を重ねていく取組を進めていきたい。								
	道徳教育 感性・表現力を高める	⑦自己内対話と発信への情熱	B (85)	教員	90	40	50	10	0	0
保護者				83	27	56	14	1	2	
生徒				82	36	46	14	0	4	
⑧人権・多様性の尊重と自他の敬愛		A (91)	教員	90	30	60	10	0	0	
			保護者	93	43	50	6	0	1	
⑨多様な他者との協働と感動体験		A (90)	教員	85	50	35	15	0	0	
	保護者		94	44	50	4	0	2		
生徒	92	52	40	5	1	2				
考察・対策	○前期と大きな変容はなかった。⑧については、今年度多様性についての校内研修や参観日の講演を実施して、理解を深めることができた。 ⇒今後さらに他者と考えを話し合う中で、自分の考えを確かにしたり、変容を振り返ったりして、自分の考えを発信できる道徳の授業を目指したい。									

主 体的 ・ 対 話 的 で 深 い 学 び の 視 点 に 立 つ た 授 業 改 善	⑩ 自己の成長を実感する授業	B (82)	教 員	75	20	55	25	0	0
			保 護 者	92	44	48	5	1	2
			生 徒	78	43	35	10	2	10
	⑪ 個別最適化と協働的な学び	A (91)	教 員	90	20	70	10	0	0
			保 護 者	94	43	51	4	1	1
			生 徒	88	53	35	6	1	5
	⑫ 学びを他に生かす経験	B (84)	教 員	75	25	50	25	0	0
			保 護 者	86	37	49	6	1	7
			生 徒	91	56	35	5	1	3
資 質 ・ 能 力 土 台 と な る	⑬⑭ 自己肯定感 自己有用感 自己受容 自己信頼	自己肯定感 B (79)	教 員	70	5	65	30	0	0
			保 護 者	91	44	47	8	0	1
			生 徒	77	37	40	15	3	5
		自己有用感 B (75)	教 員	75	5	70	25	0	0
			保 護 者	84	31	53	11	1	4
			生 徒	65	22	43	24	4	7
考 察 ・ 対 策	○⑩⑪については前期より肯定率が上がった。課題解決に向けて自身の考えを持ち、仲間と話し合う姿が多く見られるようになった。一方、⑬⑭については、教員の肯定率が前期より上がったものの、生徒の肯定率が下がった。生徒は学びを他に生かす経験を重ねているが、経験を振り返って成長したか実感を持つことができず、自分に自信を持っていないことが考えられる。 ⇒相互評価や自己評価の在り方について検討するとともに、諸活動において個々の工夫や努力が認められる場を保障していきたい。								
家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	⑮ HP、学年・学級だより等による取組状況の情報発信と連携。	B (73)	教 員	65	10	55	35	0	0
			保 護 者	87	34	53	8	1	4
			生 徒	72	31	41	13	3	12
	⑯ 外部の人的・物的資源の活用。	B (78)	教 員	70	10	60	25	5	0
保 護 者			86	33	53	7	0	7	
生 徒			79	41	38	8	2	11	
考 察 ・ 対 策	○⑮⑯とも、教員の肯定率が前期より上がったものの、生徒の肯定率は下がった。生徒の取組を称揚し、共有するなど情報発信が生徒には十分伝わっていないのではないかとという反省が見られる。 ⇒・生徒や保護者に生徒の取組や変容などを伝え、三者が成長を実感できるよう、適切に情報発信や収集を行えるようにしていきたい。 ・学びを外部の方々に発信したり、評価してもらったりする機会を設けるなど、外部との連携を行っていきたい。								

【保護者の御意見に対する回答】

- 服装規定や自転車通学等、学校のきまりについて
→多くの御意見をいただきありがとうございます。服装等の規定については、生徒や保護者の意見、最近の社会的な情勢も踏まえ、今後校則検討委員会を設けて検討していきます。
- 学習や行事の充実について
→建設的な御意見をいただきありがとうございます。コロナも幾分か状況が改善されてきました。今後も、愛媛大学はもとより、外部の人材を活用して学習を充実させていき、多様な人々とのつながりを通して子どもの学びや成長が高まるようにしていきたいと思っております。保護者の方の参観等も、規制緩和に伴う大学の方針を受け、進めていきたいと思っております。
- メール連絡やロイロノート以外の通信等、家庭との連絡について
→現在、HPや文書のオンライン配信、MACメール配信など、いろいろなネットワークの手段を用いて連絡や情報発信等を行っています。しかし、その手段が多様であるほど、連絡の確認や発信に混乱が生じます。新たな手段についても、情報を得ながら、よりよい連絡の環境を整えていきたいと思っております。

【来年度に向けた具体的な改善・検討内容】

- 生徒が達成感・自己肯定感・自己有用感を得られる学習や諸活動の設定と評価の工夫
- 生徒の諸活動への取組やそれらを通じた成長を共有できる情報発信の充実